

## EHF ヤングレフェリープロジェクトの成功のカギ

2006年7月 ヨーロッパオープンで審判を務めた EHF のヤングレフェリーの感想より。

### 訳 & ポイントのまとめ リトルハンド

2006年スウェーデンでヨーロッパオープンが6日間の日程で開催された。24カ国からチームが集まった。この大会の審判はすべて各国のヤングレフェリープロジェクトから派遣された。以下はオランダの二人のヤングレフェリーのインプレッションである。彼らは最後に決勝を吹いている。

(準備と期待から)

#### 1 レフェリーコーチの存在

不安を抱えてオランダから参加した二人の若者の力になったのは、レフェリーコーチの存在。Ton Mijers 氏 (ビーチハンドボール EHF 代表審判の一人)

#### 2 出発前の入念の準備

母国オランダにおいてユース部門の審判を担当。オーストリア、ドイツ、オランダのユース国際試合も含む。これにより、世界レベルの審判を母国で前もって経験を積むことができた。3月から出発前の7月までほとんど毎週末、一度に2試合吹くことも。

#### 3 ルールを英語で言えるように準備

各国の代表選手、スタッフそしてヤングレフェリーと話せるように準備をした。かなり苦労したが実際のトーナメントでは役にたった。

(トーナメントでは)

#### 1 1試合目の前半が非常に緊張した

合計7試合を吹くことができた。2回戦で初めて笛を吹いたが、前半は笛の音が高すぎ、動作も落ち着きなく、非常に緊張していたことが判明。後半からあとはずっとよくなった。

#### 2 試合後の確認用紙で試合を冷静に見ることができたのがよかった

スーパーバイザーとの意見交換の前に試合を振り返る用紙に自分たちの意見を書くことで、試合を十分客観的に振り返ることができたし、試合を現実に見る目を養うことができた。

#### 3 各国の代表者と試合の後で話せたのがよかった。

毎試合後にタイムキーパー席に座っている各国の代表者と話せたのがよかった。代表者たちは私達に試合後に改善すべきアドバイスをくれたが、また顔を合わせた時に、その週にどれほど自分たちが向上したかを実際に代表者たちに教わって確認することができたからだ。

#### 4 レフェリー同士のチームスピリットがよかった

各国のヤングレフェリーと仲良くなり、お互いの審判を見学することができた。いつもどのペアの間にはよい緊張感があったようだ。みな、相手によくなってもらいたいと願っている証拠であるし、結果的に二人が向上することにつながるからだ。

#### 5 毎日のテクニカルミーティングがよかった

朝には一日の時程を確認することができ、夕方には翌日の達成目標を確認できた。私達はミーティングの内容をすべて書き留め、言われたことを勉強したが、これが大変役に立った。

## 6 十分な睡眠と休憩が必要

確かにすべての試合の審判を見れば、もっと技術的に向上したかもしれないが、十分な休憩と睡眠をとることも同様に重要だと感じた。長い試合期間持たないからだ。

## 7 テクニカルミーティングはさらにつっこんだ議論を望む

確かに十分にテクニカルミーティングは有効だが、私達はもっとつっこんだ議論をしたかった。例えば、progressive punishment, attacking faults, moving lanes stayed at a basic level 等の話題に関してである。なぜかと言えば、これらはレフェリー同士がよく話題にしていたことだからである。

## 8 レフェリーコーチは必要である

各国の協会がレフェリーコーチを派遣していないことに驚いた。当然、派遣するものだと思っていたから。私達は母国での準備の段階からずっとレフェリーコーチがついて指導にあたっていた。当然、トーナメントにも来ていた。それは、母国での準備が果たして十分だったか、実際にトーナメントで力を発揮しているか、コーチが確認するのである。

また、トーナメント中、ビデオで私達の審判を記録してくれたので、いろんなことをアドバイスを受けたので、私達にとって最大の恩恵を被ることができた。他のヤングレフェリーもレフェリーコーチが必要だと思う。

## (結論)

ヨーロッパオープンとヨーロッパクラブ選手権は母国以外で吹く最初の試合となったが、初めて世界レベルというものを知ることができた。大会の雰囲気、試合のレベル、いろんな人を知ったことは大きな財産となった。近い将来またお会いしたいと思う人にも会えた。この派遣のための準備は用意周到で何もとまどうことはなかった。この機会を得て、審判レベルが格段に向上したと思うし、またこれからも向上すると思う。